

軍事・歴史・政治・経済研究紙

MONTHLY DAITOH-NEWS

本紙の年間購読は本体3,000円+税です。

民主主義とは民族国家の自己主張

民主主義を自由・平等・博愛と誤解した線御教育

民主主義の根本を、多くの日本人は、自由の尊厳に帰する。しかし自由の尊厳こそ、日本人が長く誤解している元凶の根源である。日本の社会構造の中に、自由など何処にもないのだ。

愚かな幻想の中に多くの日本人は迷妄し、攪乱される。自由の幻想はここに寄生し、この寄生虫は日本国家の中枢を喰うている。

つまり日本は、昭和二十二年(一九四七年)に、これまでの日本式教育を改めて、アメリカ式教育に変更するという思い違いが、そもそも民主主義教育を誤解させた大きな元凶であった。民主主義の取り違いは、実は此処に由来する。

日本国民の多くは、戦後の民主主義教育がアメリカ式教育に変更されたと思いついて、これは大きな間違いである。日本の教育制度の中に、アメリカ的なものは何処にも存在しない。

日本の戦後民主主義下で、今日の教育現場で行われている「民主主義教育」と標榜する教育ほど、アメリカ式教育と掛け離れているものはない。そして多くの日本人は、アメリカ式教育の実体を知らない。

その最大の特徴は、日本の教育は文部省(現在の文部科学省)が管轄し、それに制約を加えている点である。

ところがアメリカでは「教育の自由」を徹底させている。したがってアメリカ政府は「教育の自由」に干渉しない。州立大学があるにはあるが、大学運営を州が経営しているのだから、日本では国立大学や公立大学というものは原則的に存在しない。アメリカでは「教育の自由」を表面に打ち出され、国家が教育に介入すると言う現実はない。かのハーバードですら私立大学である。

そしてアメリカ式教育の主眼は、アメリカ人として誇りを持たせ、アメリカ合衆国に忠節を尽くす事をその教育の最大の特徴としている。

アメリカ式教育は国家に忠誠心を誓う事と、アメリカ人としての生活を指導する事なのである。つまりこれは、近代国家における民族国家(Nation-state)民族を基礎として、19世紀のヨーロッパに典型的に成立した統一国家としての成立と傾城を維持する事に、その主眼が置かれているのである。ドイツでは「Nationalstaat」と云い、やはり市民革命を経て、国民の一体性の自覚の上に完成した国家を指すのである。

歴史を紐解いても分かる事だが、「民族」というものは自然発生的に存在したのではない。また氏族や部族がそのまま民族を形成したものでない。

中世ヨーロッパにおいて、これまでの貴族支配は、近代的統一国家と真っ向から対立するものであった。したがって国民の一体性の自覚を完成させるには、中世等諸国家を民族国家にまで高揚させて、これを統一しなければならぬ。これが民族国家であり、近代国家はこれによって生まれ変わる事が出来た。

要約すれば、「民族」とは人間がつくったものなのである。人間の作為によってつくられたものであるが故に、民族形成に傾倒するものが民族国家の主眼とするところなのである。

したがってアメリカ合衆国とは、民族教育にその重きを置き、そこにこそ、アメリカの教育の原点があるのである。

アメリカの生い立ちの歴史は、移民に起源している。自由を標榜し、宗教や身分、民族や言語、財産の有無を一切問はず、これを受け入れた歴史を持つ。この歴史こそが、アメリカの主眼とするところであり、これによってアメリカ合衆国を構築した。

だからこそ、アメリカでは、アメリカ式教育の最大の特徴は「民族教育」であり、この民族教育を通して、一人一人のアメリカ人に、国民としての民族意識の自覚を持たせるのである。アメリカは、この民族教育を通じて、アメリカ人を作り上げるのである。

アメリカの初等教育における指導方針は何か。それはコミュニケーションを確立し、異なる意見の持ち主と協調し、それを理解させる事を第一とする。こうした教育の背後には、各々に応じて、立場や身分、宗教や言語、環境や地域の違いがある。これ等の違いをコミュニケーションによって意思の疎通を図るのである。

アメリカでは意思の疎通に最大の時間をかけ、じっくりと基礎教育を施すのである。これを小学・中学・高校まで、じっくりと時間をかけるのだ。したがって一方では、読み書き計算できない、半文盲と言われる者が高卒の中に出来て来る。

しかしこうした事は日本では絶対にはあり得ない。日本で基礎的な読み書きや計算が出来なかつたら大変な社会問題になる。ところがアメリカではこういう事態を、それほど重要とは考えない。

ではアメリカでの教育は、一体何が行われたのか。アメリカでは、アメリカ国家に忠誠を尽くす、アメリカ人の養成を、小学・中学・高校まで、じっくりと時間をかけて行ってきたのである。

アメリカでは教育(民族教育)は小学・中学・高校を通じて行われ、勉強は大学に入学してから始まるのである。

したがってアメリカ式教育の最大の特徴は、小学・中学・高校を通じて、アメリカ人になる為に多くの時間を費やされるのである。

多くの日本人はこうした実感については、特定の宗教を持たない人以外、実際にはピンと来ないものである。

また、日本人が古くより親しんできた仏教は、他の宗教と比べても、懐が深い事が認められ、神道に於いてこれに準ずる大きさがある。

日本人はこうした宗教観に対し際限のない広さを持ち、あらゆる環境や多様性のもと、八百万の精神で取り組んできた。こうした生活環境の中で育った日本人は、如何なる新興宗教や宗派の違いの宗教を持ちながらも、その根元には共通して、一本の「日本教」なるものが流れ、この日本教の考え方方で物事を考える思考を持つている。したがって外国人のこうした宗教観を理解する事は難しく、逆に日本人は宗教戦争と言ふ現実を理解するのが非常に困難なのである。

深層部に深く潜入し、排他的になつて、最終的には抹殺すると言ふ激しい、妄想が吹き上げるのである。そして意識的にはこれが危機感となり、自分の信じる以外の宗教が蔓延する事になると、世の

アメリカでは意思の疎通に最大の時間をかけ、じっくりと基礎教育を施すのである。これを小学・中学・高校まで、じっくりと時間をかけるのだ。したがって一方では、読み書き計算できない、半文盲と言われる者が高卒の中に出来て来る。

しかしこうした事は日本では絶対にはあり得ない。日本で基礎的な読み書きや計算が出来なかつたら大変な社会問題になる。ところがアメリカではこういう事態を、それほど重要とは考えない。

ではアメリカでの教育は、一体何が行われたのか。アメリカでは、アメリカ国家に忠誠を尽くす、アメリカ人の養成を、小学・中学・高校まで、じっくりと時間をかけて行ってきたのである。

アメリカでは教育(民族教育)は小学・中学・高校を通じて行われ、勉強は大学に入学してから始まるのである。

したがってアメリカ式教育の最大の特徴は、小学・中学・高校を通じて、アメリカ人になる為に多くの時間を費やされるのである。

多くの日本人はこうした実感については、特定の宗教を持たない人以外、実際にはピンと来ないものである。

また、日本人が古くより親しんできた仏教は、他の宗教と比べても、懐が深い事が認められ、神道に於いてこれに準ずる大きさがある。

日本人はこうした宗教観に対し際限のない広さを持ち、あらゆる環境や多様性のもと、八百万の精神で取り組んできた。こうした生活環境の中で育った日本人は、如何なる新興宗教や宗派の違いの宗教を持ちながらも、その根元には共通して、一本の「日本教」なるものが流れ、この日本教の考え方方で物事を考える思考を持つている。したがって外国人のこうした宗教観を理解する事は難しく、逆に日本人は宗教戦争と言ふ現実を理解するのが非常に困難なのである。

深層部に深く潜入し、排他的になつて、最終的には抹殺すると言ふ激しい、妄想が吹き上げるのである。そして意識的にはこれが危機感となり、自分の信じる以外の宗教が蔓延する事になると、世の

深層部に深く潜入し、排他的になつて、最終的には抹殺すると言ふ激しい、妄想が吹き上げるのである。そして意識的にはこれが危機感となり、自分の信じる以外の宗教が蔓延する事になると、世の

深層部に深く潜入し、排他的になつて、最終的には抹殺すると言ふ激しい、妄想が吹き上げるのである。そして意識的にはこれが危機感となり、自分の信じる以外の宗教が蔓延する事になると、世の

深層部に深く潜入し、排他的になつて、最終的には抹殺すると言ふ激しい、妄想が吹き上げるのである。そして意識的にはこれが危機感となり、自分の信じる以外の宗教が蔓延する事になると、世の

深層部に深く潜入し、排他的になつて、最終的には抹殺すると言ふ激しい、妄想が吹き上げるのである。そして意識的にはこれが危機感となり、自分の信じる以外の宗教が蔓延する事になると、世の

エルサレム「岩のドーム」が語るもの (その三十五) イオンド大学教授 曾川和翁



パレスチナ、エルサレム「岩のドーム」

中世の宗教戦争とその背景 中世と、その当時の戦争の足跡を見るとき、その特徴に挙げられるのが、中世期の戦争の殆どには「宗教」が密接に絡んでいるという事である。この時期の戦争は宗教問題が絡み、宗教とは一体なんであるか、という疑問が浮上してくる。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の三宗教の聖地はエルサレムであり、この聖地奪回を巡っておよそ百年間の七回に亘る戦争が繰り返されて来た。

多くの日本人はこうした実感については、特定の宗教を持たない人以外、実際にはピンと来ないものである。また、日本人が古くより親しんできた仏教は、他の宗教と比べても、懐が深い事が認められ、神道に於いてこれに準ずる大きさがある。

日本人はこうした宗教観に対し際限のない広さを持ち、あらゆる環境や多様性のもと、八百万の精神で取り組んできた。こうした生活環境の中で育った日本人は、如何なる新興宗教や宗派の違いの宗教を持ちながらも、その根元には共通して、一本の「日本教」なるものが流れ、この日本教の考え方方で物事を考える思考を持つている。したがって外国人のこうした宗教観を理解する事は難しく、逆に日本人は宗教戦争と言ふ現実を理解するのが非常に困難なのである。

歴史を工学的に科学する

〒802-0985 北九州市小倉南区志井6丁目11-13 (尚道館ビル2F)

九州科学技術研究所 093(962)7802 FAX093(961)8224 Eメール: science@daitouryu.com

九州科学技術研究所 Kyushu technology Institute logo and name.

九州科学技術研究所 URL http://www3.ocn.ne.jp/saigouha/

大東流霊的食養道HP www.daitouryu.com/syokuyou/ 癒しの杜の会HP www.daitouryu.com/iyashi/